

世界7都市・アトリエから、こんなにちは。

仕事場は人生の多くの時間を費やす場所だ。だからこそ自宅とはまた別のことだわりが満載。屋根裏、緑の中など、海外のアトリエはこんなに自由で楽しい。

海外の  
アトリエ①  
FRANCE  
シグー Cigüe 建築家集団 パリ  
サイクル

## 機能性と再利用、作風そのままの空間。

左からアルフォス・サルトゥー、エルワン・ルヴィック、カミーユ・ペナール、アドリアン・アンフルヴァイ、ギエム・ロナルド、ヒュゴ・アス。パリ・ヴィレット建築高等専門学校卒業、2003年結成の建築家集団。11/4までシボネ青山でエキシビションを開催。www.cigue.net

LIVE  
your own way.

右:手作り木箱を引き出しに、作業用具の整理棚に仕上げた例。左:フランス国鉄の倉庫から放出されたメタル製パレットを大量に手に入れ、溶接して棚に転用。アトリエの隅で作業中の部品や素材を振り置きする棚に。



周囲に商店もない住宅地。RATP社の座席工場だった建物の460m<sup>2</sup>がシグーのオフィス兼アトリエだ。

パリの東の隣町モントルイユは、市内に数多く残る元工場や倉庫などの物件にひかれた、アートやデザイン業界人が集まるエリア。建築家集団シグーのオフィス兼アトリエは、この町の一画、典型的な元工場の中にある。「ここはパリのメトロとバスを統括するRATP社の、車両の座席工場だった場所。画家やビデオ制作会社など、5グループでシェアしています」。モントルイユにはいまも町工場が多く、彼らの発注する金属や木工職人のアトリエも歩いて10分ほどの距離。「職人たちとの密接な対話が可能で、同じ町で働く仲間意識がもてるのも、この地にアトリエをもつ利点です」。シグーの6人は、パリの建築学校の同期。在学中の共同制作で意気投合し、学生時代から協力して、アパートマンの内装や家具作りを手がけてきた仲間だ。彼らの最初の作業場は、学生時代、寝泊まりしながらほかのアーティストと一緒に19区の共同アトリエ。その後、郊外の共同アトリエを経て、3年前、現在の住所にアトリエとオフィスを移転した。



倉庫用ストック棚の金属構造に、手作り&リサイクルの木箱引き出しを組み合わせたお手製整理棚はアトリエに3台。作業台と下部の引き出しの間に、キャスター付きの作業テーブルが収納できる仕組み。

オーブンスペースのオフィス。手前の個室は応接・会議室。2つのデスクのシマに、シグーの6人と建築系、事務系合わせて総勢14人が働く。



全員でランチを囲むテーブルは、Le 104のレストランで試作したテーブルや椅子をつないで。



創始者6人とスタッフが肩を並べて働く機能的なオフィス。チームワークを象徴するよう。



周囲に食堂がないから、給食当番ならぬランチ当番が。黒板塗装したトイレの扉は週替わり当番表。



イザベル マランのショップ用につくったメタルの棚。模型や素材を置く、素材の図書館の一部に。



DATA  
●構造と規模／2階建て工場の一部 ●延床面積／200m<sup>2</sup>(1階アトリエ)、130m<sup>2</sup>(2階オフィス) ほか、オフィスの下の階に将来の会議室＆ストック置き場としての130m<sup>2</sup>がある(現在工事中のため図面なし)。

LIVE  
your own way

う。その横のL字形スペースは、シグーの魂とも言える素材の図書館だ。「木材、金属など素材業者の見本や、施工現場で使ったオリジナル素材のサンプルを集めた棚は僕らの心臓部」

スタッフ全員が手にとれるよう回廊ふうになっているが、将来的には、「ハート」的存在としてオフィスの中央に置きたいと言う。

ランチのテーブルや椅子は、「Le 104」のレストランの内装の試作品。素材や模型を並べた棚は、イザベル マランのショップから。その横には、木製パレットの廃材利用にこだわった時期につくったベンチ……。シグーのオフィス兼アトリエは、彼らの歩みと進化を物語る。

「卒業前に活動を開始し、建築家の看板が出せない頃につくった会社。だから最初の登録業種は木工職人だった」というシグー。10人のスタッフを抱え、国際プロジェクトを手がけるまでに成長したいまも、手仕事とチームワークの精神は変わらない。そのオフィスは100m<sup>2</sup>強のオープンスペースだ。

オフィスのコンセプトは「機能性とシンプルシティ、ベーシック」。そこに、建築素材の3大要素である鋼鉄のストラクチャ―、コンクリートの床、木材が同居する。一角にはキッチンとスタッフ全員が集う食卓があり、黒板に書かれたランチ当番表がほほ笑みを誘う。



### シグーの歩みを物語り、進化するスペース

アトリエの象徴になっているのは、引っ越しを繰り返しながら愛用してきた、使いこなされた整理棚だ。

「共同アトリエでは、広げた作業スペースを作業が終わることに片付け、次の作業者に譲るのが決まり。男ばかりは、傷が増えてきたら天板だけを取り換える。ベースを有効利用するために、キャスター付きの作業テーブルは作業台の隙間にスライドして合体収納。アイデア満載の棚は機能性に満ち、リサイクルや素材の転用といったシグーのエスプリの集約だ。

6人のチームだから、道具を整理、管ストック棚用金属ストラクチャーに、リサイクルの木箱や手作り引き出しを組み合わせる。ステンレスで内容物を明記し、工事現場で着想を得た丈夫な電気ケーブルやストラップで取り手をつける。整理棚に付属した作業台は、傷が大きくなったら天板だけを取り換える。ベースを有効利用するために、キャスター付きの作業テーブルは作業台の隙間にスライドして合体収納。アイデア満載の棚は機能性に満ち、リサイクルや素材の転用といったシグーのエスプリの集約だ。